

2019年度第2回町田市環境マネジメントシステム外部評価委員会

議事要旨

【日 時】2019年7月25日（木） 午後6時30分～午後8時30分

【場 所】市庁舎2階会議室2-2

【出席者】

委 員：松波（委員長）、奥（職務代理）、斉藤（崇）、澤井、須永、斎藤、越智、多久島、菟澤

事 務 局：町田市環境資源部 荻原、環境政策課 宮坂、川瀬、土志田、坂牧、井上、香山

コンサルタント：株式会社知識経営研究所

【傍聴者】なし

報告

現地確認について

- 事務局から、報告を行った。

松波委員長：委員より感想も含めて報告いただきたい。まず、7月9日に参加された委員から伺いたい。

斉藤（崇）委員：観光まちづくり課はフロア内にいくつか他の課が入っている。課をまたいだ取り組みについて、始業前に電気をつけないことなどは協力しているとのことであったがもうすこし進められないか。また、オフィス内は紙の節約を進めているが、外向けのパンフレット・リーフレットの作成等の紙使用はどうなっているか気になった。鶴川中学校は独特の形状で特殊な取り組みを行っている。各教室で授業を受けるため、自分が占有するスペースがなく、共有意識が自然と芽生えるというのが印象的であった。資源ごみの分別等もしっかりされている一方で、先生方の職場研修やe-ラーニングが実施されていない点をどう考えるか。鶴川中学校で勤務中は、外部業者もいるため、エネルギー管理ができていますが、異動先でそれができるかどうか気になった。

多久島委員：鶴川中学校では先生方が授業後の片付けや消灯を行っており、チェックもしている。環境や資源削減に対する意識はあるのではないか。紙類の整理もされていた。そういったところを評価すべきではないか。

斎藤委員：いずれの施設もシステム化された設備による環境マネジメントの体制は評価できる。例えば、観光まちづくり課はPCのスリープモードが離席とともに自動的に実施されるようになっている。鶴川中学校は外部業者がエネルギーマネジメントを行っている。そういう面では合理的にできているが、中学校は生徒の増員に伴う施設増設にどう対処するか、市役所についても残業時、

局所的な一部分だけの空調運転ができず、ロスが出てくるという印象があった。また、中学校の職員室は、先生の周りは紙だらけの状態であった。環境とは直接結びつかないかもしれないが、教員の事務作業の IT 化、授業も黒板の授業が主であるがそういったものの IT 化によっても省力化が図られるのではないか。

奥委員：空調、給湯の適正使用は課単位で評価するのが妥当であるかが気にかかる。部単位、フロア単位が適当ではないかと感じる。課単位の評価をこれからも継続していくかは検討すべき点であるかと思う。

松波委員長：12日に参加された委員はどうか。

越智委員：総務課では、紙の使用量が思ったより多いと感じた。新しい文書管理システムの導入によってどのような結果が得られるか期待したい。エコについては高いレベルで取り組みをされているので、その点は評価したい。南第一小学校はびっくりするぐらい老朽化した施設で、エコに立ち向かう、全てを阻むような施設であった。それなりの努力をしていることは見えたため、施設の古さが際立ち、取り組みの難しさを感じた。

葉澤委員：総務課は、まとめ役の部署ということで率先して取り組む意識がある。IT化されており、複合機に啓発メッセージを表示したり、他部署で紙使用が多い個人に対する指導も行っているということであった。エコオフィスの評価が高評価であったが、実際もちゃんとできていた。くるくるコーナーが使用できていなかったのは使用したい物がなかったとのことであった。地下の印刷室は印刷会社の様に大きなシステムがあり、また、きれいに整理整頓されていた。小学校は古さに驚いた。古さ故、照明が暗い、すきま風があるという状況に加え、子どもが増え、更に学校内に学童を設置することになったなど、厳しい条件があった。学童が大量に電気を使って、学校の電気が落ちることもあったとのことで、学童への指導も大切だと感じた。生徒の健康を守るため、エアコンの温度設定を一律に28℃とすることは難しいが、こまめに管理をしている。ごみの管理は事務の方が徹底して行っていた。

松波委員長：エコオフィス活動の各部署の自己評価がなぜその評価になったのかが、確認できた。概ねそのとおりの状況という印象であったようである。この結果を評価につなげていただきたい。

議題

1次評価の審議

松波委員長：項目ごとに審議を進める。進行は、中立の立場からコンサルタントにお願いする。

コンサルタント：資料2と比較対象として前年度の外部評価の報告書を見ていただきたい。評価報告書の5ページが2018年度に最終的にまとめたものである。平均点を2018年度と比較しながらみていくとイメージがしやすいかと思う。エネルギー、廃棄物、内部監査の項目では2018年度より評価が少し悪くなっている。

これがイメージと合致しているか検証していただくと良いかと思う。資料 2 では、個人間のばらつきを見ていただきたい。合わせる必要はないが、見落としがないか等のすりあわせをした上で 2 次評価をしていただきたい。

温室効果ガス排出量エネルギー使用量

- 事務局から説明を行った。

コンサルタント：点数に乖離がある委員に代表してご意見を伺いたい。高い評価点をつけた須永委員はどうか。

須永委員：基本的に、前年に対して良くなっている。排出係数の低い業者への切り替えは良い評価になると判断した。

コンサルタント：コストだけでなく、より環境に配慮した電力事業者との契約について基準を設け進めていることは、自治体の中では先進的な取り組みである。厳しい評価であった委員はどうか。

奥委員：まだ改善の余地があるということで厳しめにつけた。特に契約のあり方として、代替値未満の業者との契約は前進ではあるが、競争入札と随意契約で同じ考え方を採る意義は何か。競争入札の方が改善の余地は多分にある。競争性が確保できるある程度の規模であれば、例えば、裾切り方式のような点数評価などの検討が出来なくはない。随意契約にせざるを得ない小さい施設ではそれが難しいので、その 2 つを分けて整理するとまだ出来ることではないか。良くやっていると思うが、期待値を含んだ評価である。

廃棄物・紙資源・グリーン購入

- 事務局から説明を行った。

コンサルタント：事務局の説明に対してどうか。結果の数字というよりは前年度と比較できないことに辛めの評価なのかと思うが、事務局の説明でご理解いただけたか。

齋藤(崇)委員：集計方法が変わり難しい点もあるが、EMSは継続的な改善が必要ということで昨年と数字を比較した。ごみは一時的な増加があるにせよ、再利用率はかなり差が出ている。紙の購入量は減っているが、グリーン購入に関しては数字が芳しくない。実績報告書 3 ページに記載の評価基準では、グリーン購入達成率が 80%未満であると評価点は 1 になるが、学校の結果がその水準にあるのはなぜなのか。学校の特殊事情で仕方がないということであれば、別の評価基準が必要になってくるのではないか。そういったことを含め、総合的に考慮し、3 が普通評価だとするともう少し他の部分で頑張れたのではないかと、2 という評価とした。

コンサルタント：紙の購入量について事務局に確認だが、評価対象とする紙の種類が今年度はコピー用紙だけになるのであれば、過去の実績から対象とならないものを引くことは出来ないのか。これまではコピー用紙以外にも色紙、コート紙が集

計に入っていた。その値から色紙、コート紙を除くことは出来ないのか。

事務局：紙購入量についても、グリーン購入の集計の中から抽出しており、同じ集計方法はとれなくなった。過去のデータから色紙、コート紙を除くことは出来ない。

奥委員：追加資料2で説明いただいたが、そもそもなぜ色紙が把握出来ないのか。

事務局：これまではグリーン単位を使用し、紙の総量を集計していた。新システムでは量の把握が出来なくなった。単価契約で購入しているコピー用紙はデータを出すことが出来るため、その数値で実績を見ることとした。

奥委員：色紙等はシステムで購入していないのか。

事務局：システムで購入はしているが、システム上、枚数や量が把握出来ない。単価契約で購入するコピー用紙は単価が確定しているため、購入金額から購入量を把握することが出来る。

コンサルタント：来年以降は比較出来るが、今年に関しては移行期ということである。その点をどう評価するか、量の部分は評価にいけないか、委員の皆さんのお考え次第かと思う。

コンサルタント：高い評価をされている多久島委員はどの辺りを評価されたか。

多久島委員：実績はそれなりに上がっている。事務局で取り組んでいる効果が出てきている。システムがどうであっても実績を出してきているので、評価すべきと考えた。

コンサルタント：量的なものは今回比較が出来ないため、活動を重く見て評価していただいたということで良いか。

多久島委員：この取り組みの本体は何かと考えると、少しでも状況が良くなるようにシステムを考え、実行しているので評価した。

コンサルタント：現地確認の結果も含めてということか。

多久島委員：現地確認も踏まえてしっかり出来ていると判断した。

松波委員長：現地確認の状況も踏まえ、経年変化でデータからは追えないことは2018年度の3.2であった評価点が今回2まで下がる要因にはならないのではないかと。

コンサルタント：そういった意見も含めて次の評価につなげていただきたい。

エコオフィス活動（共通の取り組み）

コンサルタント：高評価が多い。何かあるか。最高評価の越智委員はどうか。

越智委員：エコオフィス活動は共通して認識高く取り組みがされていた。フロアが広く、部署が多く入っているため不透明な部分もあると思うが、その部分を含めてしっかりされている。

コンサルタント：現地確認の結果も含めてということか。

越智委員：そうである。総務課はお手本的な部署でもあったので良く取り組みが出来ていた。

奥委員：何々が出来なかったというネガティブな評価の場合の要因分析がされていな

いところが見受けられる。次の改善につながっていかないのでは、その部分を書いていただくように次回はしていただきたい。

コンサルタント： 具体的にはどの辺りか。

奥 委 員： 実績報告書の 21 ページの記載である。やむを得ない状況があったのかもしれないが、資料からは分からない。ごみの減量の記載では、教室での分別の啓発が子ども向けなのか教員向けなのか、もう少し説明をつけていただきたい。

コンサルタント： これは各課が記載した文章なのか。

事 務 局： 各課によるエコオフィスチェックシートの記載である

エコオフィス活動（施設管理部署の取り組み）

コンサルタント： こちらも概ね評価は高い。

斎藤委員： 活動に対するコメントが多いかと思うが、自身の会社や他の会社と見比べて良くやられているということで高い評価をつけた。

コンサルタント： 現地確認の結果も踏まえてということか。

斎藤委員： そうである。

コンサルタント： 葉澤委員はどうか。

葉澤委員： 現地確認の学校は古くて衝撃を受けた部分もあったが、それでもそれなりに取り組みをされている。更にもう少し出来ることがあればと点をつけたが、厳しい条件の中での取り組みを見ると頑張っていると思わざるを得ない。

コンサルタント： 南第一小学校はエコオフィスの評価点はあまり良くないが、出来ていないところは施設のどのような感じなのか。

葉澤委員： そうである。

内部監査

- 事務局から説明を行った。

コンサルタント： 事務局が説明した回答についてどうか。

奥 委 員： EMS を構築して運用するにあたり、法令遵守は最低限のラインである。そこが十分に出来ているか不安にさせる要素が昨年来確認されている。他の法令は大丈夫かという不安が出てきてしまう。部署がしっかり対応しているであろう、また、すべきところではあるが、時折それを確認することを実施した方が良い。胸を張って大丈夫といえる状況なのか。常に事務局でフォローすべきとは思わないが、一度一斉点検を実施というのは必要かと思う。

コンサルタント： 現在の EMS での法令管理にご指摘いただいたような網羅性がないことには経緯がある。もともと町田市は ISO を取得していたが、省エネ法の適応を契機にエネルギーマネジメントを全庁的にやっていたこととなった。町田市の仕組みは他自治体に比べても対象範囲が非常に広い。教育委員会や学校は別にしている自治体が大半である。施設数も 400 程度と小さくない自治体である町田市において、この広範囲をマネジメントしていくにあたってエネルギー

マネジメントに特化した仕組みにしていこうというのが最初のスタートである。そうはいつても今まで ISO でやってきた法令管理を何もしないわけにもいかない。そこで、職員が日常的に対応するものに限定し、それは監査でしっかりみていこうという構成になっている。施設管理者が行うものはマネジメントから外して、職員の意識・知識が必要になるものをフォローしていくということで、廃棄物処理法、フロンを対象にしたスタートであったことは補足しておく。

コンサルタント： この項目についてどうか。

松波委員長： 法令違反が出ているので、5 はつけられなかった。

コンサルタント： 監査をやっていることは各委員評価いただいているかと思う。監査の中身も町田市は厳しい監査をしている。その結果、法令違反に近い状態が出ていることに厳しい評価をされるのは正しい評価かと思う。

澤井委員： 意識の問題と制度の問題に分けると、現場の人達はやろうという意識は高い。その他が伸びきらないのは現場のやり方が悪いのか、事務局がもっとやらないと数字が上がらないのか。意識と結果がマッチしていない印象を受けるがその辺りはどうなのか。営業系の会社だと社員のやる気があるにも関わらず結果が出ないのは上の責任となるが、どうか。

事務局： 2012 年度から EMS を始め、毎年研修を行い、意識は根付いてきた。各部署には自分の業務をしながら環境に配慮する負担もある。頭で理解していても行動につながらないという状況も実際には目にすることもある。より結果につながるやり方があるかを引き続き検証していきたい。

澤井委員： 意識が上がってきたというのはそうなのだと思うが、現場の人達が温室効果ガスエネルギーのためにということまで意識できているかは疑問である。複雑すぎて制度が分かりにくいのではないか。ここまで意識が高まっているのに数値が上がってこないのであれば制度を疑い、分かりやすいものにしていくのも良いのではないかと感じた。

コンサルタント： 日々のエネルギーについて、意識は一昔前に比べると出来ている。法令違反に近い状況が見られるのは意識不足ではなく、行政の仕組み自体に問題がある。例えば届出をいつまでにするとといった事務の説明が組織の中で引き継がれていないことが起こり得る。法令は当たり前前に守れているという意識があるのか、町田市に限らず役所は法令違反が多い。研修や監査でしっかりやろうとはしているが、人事異動も多い。役所の問題点であるかと思う。町田市はその点を認識しており、教育や監査を実施している。監査をやっているからこそ見つかっている。

松波委員長： 内部監査がしっかりしているからこそ不適合が見つかったといことで評価は上げた方がいいか。

コンサルタント： 中立な立場として、監査はかなり厳しく行っていると言える。

多久島委員： たいしたものだと思う。継続してやっていけばグレードアップしていく。その点は評価すべきだと思う。

コンサルタント：コメントでそういった点を記載いただき、但し結果はどうか、という評価はバランスが取れていると感じる。

多久島委員：それなりの結果も出ていると感じる。

コンサルタント：東京都や名古屋市も監査結果を公表している。比べていただくと町田の厳しさが分かるかと思う。良い監査を行っている。

奥委員：町田市は内部監査が機能している数少ない例であると思う。是正対応は指摘を受けた課には是正対応がされたか確認している。ただ、廃掃法（廃棄物の処理及び清掃に関する法律）のように他の課でも同じケースが疑われる場合は全庁的に情報を出していくことが必要である。それについては内部監査報告書や実績報告書に出ていない。今日の補足説明で初めて出てきたので、実施されている内容をしっかり報告書に記載いただく方が良いのではないか。全庁的にどう対応したというのがないので、評価点が3止まりであった。

事務局：水平展開を図り全庁に発信しているが、その旨の記載は確かに報告書に記載をしていない。

奥委員：監査で見つけた事案を全庁的な見直しの機会につなげていくという機能が内部監査においては重要である。

コンサルタント：新たな気づきを踏まえ、2次評価をしていただきたい。

事務連絡

- 事務局から、書類の提出方法等、事務連絡を行った。